

ESGファクターと株式リターンとの関係

伊藤 正晴 CMA

目 次

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. はじめに | 5. 女性の登用の状況 |
| 2. 分析について | 6. 女性の登用と株式リターンの関係 |
| 3. 独立取締役の選任の状況 | 7. 終わりに |
| 4. 独立取締役の選任と株式リターンの関係 | |

ESGファクターとして独立取締役と管理職や役員への女性の登用を取り上げ、株式リターンとの関係を分析した。独立取締役に関しては、独立取締役を積極的に選任している企業のリターンが高く、リターンを業種要因と企業要因に分解すると、独立取締役を積極的に選任している企業の企業要因リターンが高いことが分かった。女性の登用に関しても、やはり女性の登用を進めている企業のリターンが高いという傾向が観察された。

1. はじめに

ESG投資は欧米を中心に拡大してきたとされるが、2015年9月に年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）が国連が中心となって賛同、発足した責任投資原則（PRI）に署名したことなどで、国内投資家の間でもESG投資への関心が高まっているようである。GPIFは、「ESGの取組みに係る基本方針」で、「投資先企業におけるESG（環境・社会・ガバナンス）を適切に考慮することは、この『被保険者のために中長期的な投資リターンの

拡大を図る』ための基礎となる『企業価値の向上や持続的成長』に資するものとする」としている。ESG投資は、投資対象となる企業を評価する際に、財務情報だけでなく、企業価値に影響を与える可能性のあるESG情報も考慮することで、投資パフォーマンスを向上させようとする投資と考えられているのである。

実際に、ESG投資を行うには、企業評価に用いるESGファクターが企業価値や株式リターンと関連しているかを明らかにしておく必要があり、ESGファクターと株式リターンとの関係に関する



伊藤 正晴（いとう まさはる）

大和総研 経済環境調査部 主任研究員。1984年大和証券入社、大和証券経済研究所（現・大和総研）に配属。投資調査部、年金運用コンサルティング部、資本市場調査部等で、主に資本市場の定量的分析業務に従事。現在は、SRI、ESG投資等の調査分析を担当。